

平成27年度(第70回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加公演)

演劇部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 松本 幸四郎	ミュージカル「ラ・マンチャの男」における演技
	(関西参加公演の部) 大阪松竹座	松竹新喜劇錦秋公演「はるかなり道頓堀」の成果
優秀賞	(関東参加公演の部) 新橋演舞場	スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンピース」の成果
	(関西参加公演の部) 善竹 隆平	平成27年度 善竹狂言会における「花子」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 長田 育恵	てがみ座第11回公演「地を渡る舟」の脚本
	(関西参加公演の部) 明日海 りお	宝塚歌劇花組公演「新源氏物語」における光源氏の演技

音楽部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 竹本 駒之助	KAAT竹本駒之助公演第五弾 「鎌倉三代記」ハツ目切「三浦別の段」の演奏
	(関西参加公演の部) 該当なし	-
優秀賞	(関東参加公演の部) 小山 実稚恵	小山実稚恵デビュー30周年記念～秋～の演奏
	(関西参加公演の部) 石川 利光	第17回石川利光尺八リサイタルの成果
	(関西参加公演の部) 学校法人大阪音楽大学	第52回オペラ公演「ファルスタッフ」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 本條 秀慈郎	「花筐～高田和子氏へのオマージュ～」における演奏
	(関西参加公演の部) 田村 響	シンフォニー・ブランチコンサートVol.5「田村響～ショパンとベートーヴェン～」における演奏

舞踊部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 志田 真木	琉球舞踊「真木の会」の成果
	(関西参加公演の部) 該当なし	-
優秀賞	(関東参加公演の部) 猿若 清三郎	「清三郎の会～第69回猿若～」の成果
	(関西参加公演の部) 法村 珠里	法村友井バレエ団公演「アンナ・カレーニナ」におけるアンナの演技
	(関西参加公演の部) 山村 若有子	山村若有子リサイタルの成果
新人賞	(関東参加公演の部) 田村 陽子	田村陽子フラメンコ生活20周年記念公演の成果
	(関西参加公演の部) 井澤 照予	創立60周年記念第40回宮下靖子バレエ団公演「 Coppélia」におけるスワニルダの演技

大衆芸能部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	-
	(関西参加公演の部) 該当なし	-
優秀賞	(関東参加公演の部) 古今亭 文菊	第12回古今亭文菊独演会「文菊十八番」の成果
	(関東参加公演の部) 林家 正蔵	第588回三越落語会における「しじみ売り」の話芸
	(関西参加公演の部) 笑福亭 仁智	笑いのタニマチ20周年記念「仁智の新作ひとり旅」の成果
	(関西参加公演の部) 露の新治	第十回露の新治寄席「新治ひとり会」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) 桂 文雀	桂文雀独演会「文雀座」の成果
	(関西参加公演の部) 旭堂 小二三	旭堂小二三独演会2015の成果

平成27年度(第70回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加作品)

テレビ・ドラマ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	日本放送協会	土曜ドラマ「64(ロクヨン)」
優 秀 賞	株式会社TBSテレビ	TBSテレビ60周年特別企画「レッドクロス ～女たちの赤紙～」
	日本放送協会	スペシャルドラマ「洞窟おじさん」
	株式会社毎日放送	新春ドラマ特別企画「わが家」

テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	日本放送協会	ETV特集 「薬禍の歳月～サリドマイド事件50年～」
優 秀 賞	関西テレビ放送株式会社	ザ・ドキュメント 「軍神」
	株式会社毎日放送	映像'15 「わが家にやってきた脱走兵～ベトナム反戦運動・47年目の真実」
	山口放送株式会社	奥底の悲しみ

ラジオ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社宮崎放送	機銃掃射に怯えた日々～昭和20年宮崎の空の下で～
優 秀 賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社エフエム沖縄	戦後70年特別番組 ラジオドキュメンタリー 「一枚の写真～1944年10月13日 宮古島～」
	(ドラマの部) 株式会社中国放送	RCCラジオドラマ 「赤ヘル1975」
	(ドキュメンタリーの部) 株式会社毎日放送	ネットワーク1.17「20年～大震災と向き合う日々」

レコード部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	日本コロムビア株式会社	生誕77 沢井忠夫 箏曲三弦の世界 芳躅
優 秀 賞	株式会社カメラータ・トウキョウ	ブルーノ・カニーノ プレイズ 西村朗
	公益財団法人日本伝統文化振興財団	虚無僧尺八～伝承の軌跡
	株式会社フォンテック	シューベルト ピアノ作品集6

## 演劇部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) まつもと こうしろう 松本 幸四郎	ミュージカル「ラ・マンチャの男」における演技	ミュージカル草創期の1969年の初演から46年。見る者に感動と生きる勇気、希望を与え、上演回数は1200回を超えた。26歳から主演する幸四郎の演技は熟成し、「見果てぬ夢」などの歌も深みを増した。幸四郎と主人公セルバンテスが一体となり、日本ミュージカル最高峰の舞台に押し上げた。
	(関西参加公演の部) おおさかしょうちくざ 大阪松竹座	しょうちくしんきげききんしゅうこうえん 松竹新喜劇錦秋公演「はるかなり道頓堀」の成果	芝居街として栄えた昭和初期から戦後の道頓堀を舞台に、新派の人気俳優・青柳と芝居茶屋のお茶子・おきとの許されない恋と、二人を取り巻く周囲の人々の情を古き良き道頓堀への郷愁を込めて、しみじみと描き上げた。松竹新喜劇の俳優たちは、血の通った大阪弁で芝居街に生きる人たちの心情を表現、歴史ある大阪の劇団の底力を存分に示した。
優秀賞	(関東参加公演の部) しんばしえんぶじょう 新橋演舞場	スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンピース」の成果	世界的に幅広い読者層を持つ長編冒険漫画を題材に、友情を芯にした若者群像の劇として再創造した脚本の巧みさに加え、早替わり、本水を使つての立ち回り、宙乗りなど歌舞伎の技法を駆使しつつ、映像なども使つてスピーディーな場面転換を図った演出にも見るべきものがあつた。観客を巻き込んで熱狂させたエンターテインメント性は評価に値する。
	(関西参加公演の部) ぜんちく りゅうへい 善竹 隆平	平成27年度 善竹狂言会における「花子」の成果	ごくおもならいきよく 極重習曲に位置づけられる狂言「花子」を37歳で披いた善竹隆平。最大の見せ場は、多様な節回しを駆使しながらの小歌を伴った仕方話。隆平は朗々たる美声を響かせて情趣豊かに聴かせた。全体に大曲としての格を保ちつつ、浮気話でありながら品下ることなく、優婉な味わいを見せたのは初演ながら手柄である。共演した大藏千太郎の妻、善竹大二郎の太郎冠者、それぞれの演技も手堅かつた。
新人賞	(関東参加公演の部) おさだ いくえ 長田 育恵	てがみ座第11回公演「地を渡る舟」の脚本	民俗学者・宮本常一と彼を支えた澁澤敬三の評伝劇にとどまらず、今作はその研究対象であつた名もなき常民、そして時代背景である先の戦争を、小さな研究所の中から描いた。また若き研究者の群像劇としても読み、学問が危機に面する時代、その困難とどう向き合うか、という普遍的問題も提起して、秀逸である。
	(関西参加公演の部) あすみ りお 明日海 りお	宝塚歌劇花組公演「新源氏物語」における光源氏の演技	作家・田辺聖子の同名小説をもとにした舞台を26年ぶりに再々演。大階段に深紅の毛氈を敷き詰めたきらびやかな幕開けから、宝塚ならではの絢爛豪華な舞台で観客を一気に王朝絵巻の世界へと誘う。花組トップの明日海りおは、匂い立つような美しさと凛とした気品で、多くの女性を虜にした貴公子・光源氏17歳から晩年までを情熱的に演じ、宝塚の「二枚目」の系譜に新たな一頁を付け加えた。

## 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭賞受賞一覧

## 音楽部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) たけもと こまのすけ 竹本 駒之助	かーと KAAT竹本駒之助公演第五弾「鎌倉三代記」ハツ目のきりみうらわかれ だん 切「三浦別の段」の演奏	竹本駒之助の公演は、三浦之助の帰郷から、時姫のクドキ、高綱物語までの「三浦別の段」を一人で語りきるといふ、義太夫史上、半世紀ぶりに近い大きな挑戦であった。多彩な声の表現力と明瞭な発音によって、三浦之助の母と時姫の心情、計略に長けた高綱の人物像を鮮やかに語り描き、鶴澤津賀寿の三味線と相まって、聴衆の心を物語の世界に力強く引き込んだ。素浄瑠璃の魅力を押しのけた芸の力で披露した。
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優秀賞	(関東参加公演の部) こやま みちえ 小山 実稚恵	小山実稚恵デビュー30周年記念～秋～の演奏	ショパンのピアノ協奏曲第1番とラフマニノフのピアノ協奏曲第2番という、きわめてポピュラーな2曲を弾く、ピアニスト個人の記念演奏会でありながら、小山実稚恵は安定しているという以上の見事な演奏をおこなった。広上淳一指揮NHK交響楽団とともに、成熟した音楽家による抒情性豊かな表現で音楽界に収穫をもたらした。
	(関西参加公演の部) いしかわ としみつ 石川 利光	第17回石川利光尺八リサイタルの成果	石川が人生の師と仰ぐ、故横山勝也伝承の尺八古典本曲3曲と、師が作曲・演奏してきた現代邦楽4曲からなるプログラム。独奏曲の繊細さと、合奏曲の力強さの両面に、優れた表現能力が発揮された。今世紀に入り、さらに多様化する尺八音楽・楽器のなかで、師を受け継ぐ特定の様式で練り上げられた吹奏音は、継承者としての強い自覚と相まって、聴衆を魅了した。
	(関西参加公演の部) おおさかおんがくだいがく 学校法人大阪音楽大学	第52回オペラ公演「ファルスタッフ」の成果	演奏と演出がうまく噛み合せて心から楽しめる舞台を実現していたのが高く評価された。スコアをよく読み込んだ演出は特筆に値し、言葉遊び豊かな字幕も秀逸で、主演の田中勉を始め、各人の持ち味がよく発揮されていた。女性陣の配役に若干の疑念が見られ、オーケストラの音が前に出過ぎるなど気になる点もあったが、優秀賞にふさわしい公演であったことは衆目の一致する所である。
新人賞	(関東参加公演の部) ほんじょう ひでじろう 本條 秀慈郎	はながたみたかだかずこ 「花筐～高田和子氏へのオマージュ～」における演奏	三味線音楽の器楽性を追及し、独自の世界を切り開いた故高田和子による委嘱作品と、氏への追善曲を並べ、現代邦楽作品に正面から取り組むプログラムであった。卓越した技術とみずみずしい感性で、これらの作品にあらたな生命を吹き込んだ。今後の活躍が大いに期待される。
	(関西参加公演の部) たむら ひびき 田村 響	ほりゆーむふあいぶ シンフォニー・ブランチコンサートVol.5「田村響～ショパンとベートーヴェン～」における演奏	田村響は、ベートーヴェンの初期のソナタで、個性的な解釈により新鮮な魅力を引き出した。ショパンのワルツとスケルツォでは、テンポの緩急、巧みなルバート、磨かれた音色により、若々しい作曲家像を印象づけた。その高い資質をふまえて、今後は多様なプログラミングを含めて、更に大なる飛躍を期待したい。

## 舞踊部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) しだ まき 志田 真木	琉球舞踊「真木の会」の成果	定評のある形の良さに加え、形と形を繋ぐ動作もなめらかに、たおやかな情感の表出が際立った。小道具や衣裳の扱いにも配慮が行き届き、情緒纏綿たる世界を構築。とりわけ創作舞踊「水鏡」は恋慕の情と切なさ <sup>にじ</sup> が滲み、母であり師である志田房子の作品の継承とともに、花ある美しさと優れた表現力とが光った。
	(関西参加公演の部) 該当なし	-	-
優秀賞	(関東参加公演の部) さるわか せいざぶろう 猿若 清三郎	「清三郎の会～第69回猿若～」の成果	流祖清方作・振付の「飴売り」は、女から男への変わり目が良く、洒脱な風俗舞踊が猿若らしい風情を伝えた。「鏡花三彩」は、流派の重鎮吉代の創作で、泉鏡花の名作三作の新派の舞台を写す。遠くなった明治と新派の三様三彩を演じ分け踊り分けてよく表現した。女方芸に取り組む姿がすがすがしい。
	(関西参加公演の部) ほうむら じゅり 法村 珠里	ほうむらともい 法村友井バレエ団公演「アンナ・カレーニナ」におけるアンナの演技	法村友井バレエ団が総力を挙げて取り組んだ「アンナ・カレーニナ」のタイトルロールを、気品ある艶やかさでドラマティックに演じた。プロコフスキーの難解な振付に忠実に沿いながら、柔軟な身体を自在に操り、その時々的心情を訴える。特に破滅へと向かう後半の緊迫感 <sup>すさ</sup> は凄まじく、悲劇のラストまで観るものを魅了した。
	(関西参加公演の部) やまむら わかゆうこ 山村 若有子	山村若有子リサイタルの成果	地歌と長唄の「竹生島」という、琵琶湖に浮かぶ島を題材にした、曲趣の異なる二曲を選んだ企画が優れている。地歌での道行物の女舞と、長唄での本行物の男舞を素踊りでできっちりと描き分け、培われた力量を發揮。長唄での龍神の表現に大きさと神秘性をにじませるなど、二曲を通して凜然とした舞の美を感じさせた。
新人賞	(関東参加公演の部) たむら ようこ 田村 陽子	田村陽子フラメンコ生活20周年記念公演の成果	田村陽子は、踊りの巧さとともに意欲的な創作活動でも注目される。今回の「Mirada」 <sup>みらーだ</sup> 、「Piano con Duende」 <sup>びあの こん どうえんで</sup> はそれを証明する舞台。交錯する視線を表現する照明の妙や、ピアノを用いるなど音楽的工夫に満ちた構成はフラメンコ界に新風を吹き込むもの。自らのソロ3題を含め正統フラメンコの高揚するエネルギーも堪能させた。
	(関西参加公演の部) いざわ てるよ 井澤 照予	創立60周年記念第40回宮下靖子バレエ団公演 「 Coppélia 」におけるスワニルダの演技	オリジナリティ溢れる深川秀夫版「 Coppélia 」のヒロイン、スワニルダをキュートに演じた。深川振付特有の洒落たポーズやステップもセンス良くこなす。茶目っ気たっぷりで、しかもエレガント。振付家自身が扮した Coppélia 博士との掛け合いも堂々としていて頼もしく、今後の飛躍が期待できる。

## 大衆芸能部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—	—
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優秀賞	(関東参加公演の部) ここんてい ぶんぎく 古今亭 文菊	第12回古今亭文菊独演会「文菊 <sup>おはこ</sup> 十八番」の成果	「あくび指南」では職人の遊び心を軽快に、「心眼」では夫婦愛を情感豊かに丹念に、「笠碁」では仲が良いゆえにけんかをしてしまう商家の御隠居たちの姿をほほえましく描いた。いずれの <sup>はなし</sup> 噺の登場人物にも愛情を注ぎながらも、三席を見事に演じ分けて力量の高さを示した。落語の奥深い魅力を伝える演者となることを強く期待したい。
	(関東参加公演の部) はやしや しょうぞう 林家 正蔵	第588回三越落語会における「しじみ売り」の話芸	番組の三本目、若手の勢い、渋い中堅の後という流れに乗り、重く演じずに、とある冬の出来事という風情の抑えた語りが見せた。東京では義賊 <sup>さ</sup> ものだが、上方 <sup>はなし</sup> 噺の設定を用い、口入屋の親分で男気を見せる落ち着いた口調、その恵んだ金 <sup>あだ</sup> が仇となって家族が困窮してしまったと述懐をする小僧は個性に合い、道化役の子分と、それぞれの人物で緊張と緩和を巧みに操り、 <sup>こうご</sup> 向後に大きな期待感をもたらした一席だった。
	(関西参加公演の部) しょうふくていじんち 笑福亭 仁智	笑いのタニマチ20周年記念「仁智の新作ひとり旅」の成果	昭和50年代から取り組んできた自作の落語「老女A」「兄貴の頭」「多事争論」「出前持ち」を時代順に演じ、当時の自身の舞台姿に世相などを交えた映像でつないだ構成。時の経過とともにすぐに古びる感のある創作落語の上演に、新たな可能性を示した。また、 <sup>でばやし</sup> 出囃子にもネタにちなんだ工夫を加え、前座・助演を入れず一人だけで演じ切つて仁智落語の世界を表現し、観客を爆笑の渦に巻き込んだ。
	(関西参加公演の部) つゆのしんじ 露の新治	第十回露の新治寄席「新治ひとり会」の成果	緻密に練り上げた三席 <sup>しゃだつ</sup> 全てから洒脱な面白さが溢れた。さらりと演じた「紙入れ」では色気を上品に描き、歌舞伎の所作や台詞 <sup>せりふ</sup> 回しなど身についた知識に基づく自然な演技力が光った。「七段目」では上方 <sup>はなし</sup> 芝居噺の魅力 <sup>あふ</sup> を十分に表現していた。また、主人公を江戸に下った上方役者と設定した「中村仲蔵」は演者ならではの創作性が光り見事だった。
新人賞	(関東参加公演の部) かつらぶんじゃく 桂 文雀	桂文雀独演会「文雀座」の成果	持ち前の声質に力強さが加わり、臨場感のある表現力を手に入れた。「明烏」ではサゲに向かい <sup>はなし</sup> 噺の速度をうまく調整した結果、甘納豆を放り投げる名場面で、解放感を味合わせてくれた。「中村仲蔵」では、芝居への理解が聞き取れ、 <sup>みえ</sup> “見得を切る”とは言わず“見得をする”といった表現にも配慮がうかがえた。
	(関西参加公演の部) きょくどう こふみ 旭堂 小二三	旭堂小二三独演会 <sup>にせんじゅうご</sup> 2015の成果	女優業から講談の世界に入って14年。講談の基礎である「修羅場」の稽古も積んで、ようやく講談の口調が固まってきた。独演会では女義賊 <sup>しらなみもの</sup> の白浪物「琉球お松」、難波戦記から「秀頼薩摩落ち」、最後は聡明・勇敢な娘が父親の苦境を救う世話物「基石」。演目の選択も見事。力みを見せず特色の異なる三席を演じきった。

## テレビ・ドラマ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受 賞 対 象	受賞理由
大 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	土曜ドラマ「64(ロクヨン)」	警察内部を舞台に「組織と個人の対峙 <sup>たいじ</sup> 」という永遠のテーマを、極めてダイナミックに描いて突出した面白さがあった。大森寿美男の脚本の図太い構成力、井上剛の硬質でエネルギッシュな演出、そしてピエール瀧の大胆な主役起用などの合わせ技が非常に濃密なドラマを成立させた。第1回、第4回、第5回の各話を通して騒然とした多重な人物関係がサスペンスを増幅させてゆく、その語りの手際が群を抜いていた。
優 秀 賞	ていーびーえす 株式会社TBSテレビ	TBSテレビ60周年特別企画「レッドクロス ～女たちの赤紙～」	戦後70年目の夏に相応しい見応えのある歴史ドラマに仕上がっている。演出上の細かなところには、いくつか気になる点もあったが、そのスケール感の大きさと、戦争、そして国際政治に翻弄されながらも、ひたむきに生きようとする庶民の目線からの時代描写に、好感が持てた。
	日本放送協会	スペシャルドラマ「洞窟おじさん」	少年期からこのような過酷な暮らしを続けた人物がいたとは。実話ベースならではの純粋な驚きに圧倒され、冒頭から引きこまれた。他人の優しさに慣れていないが故にそこから逃れようとさえする主人公の凍りついた胸の内を、リリー・フランキーが絶妙な独白を織り交ぜて表現。端々に現代批判と生きるヒントも巧妙に散りばめた。
	まいにちほうそう 株式会社毎日放送	新春ドラマ特別企画「わが家」	東京で暮らす子供たち、一軒家に一人で暮らす母。父は20年前に家を出て帰らない。そんなばらばらの家族の再会を小気味よく描く。セリフのやりとりに親子の機微、夫婦の機微が滲み、滋味あふれるホームドラマに仕上がっている。息子と父との葛藤、夫婦の情愛など、家族関係のぬくもりと緊張感をともに感じさせる作品である。

## 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭賞受賞一覧

## テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受 賞 対 象	受賞理由
大 賞	日本放送協会	いーていーぶい やっか さいげつ ETV特集「薬禍の歳月～サリドマイド事件50年～」	胎児期に薬害の影響を受けた被害者たちの半生を被害者自身が語る。被害者たちは50代になり、新たな体の異変に襲われながら生きている。過酷な人生を背負わされて奪われたものへの怒りや告発だけではなく、人間として生き抜いてきた喜びや悲しみを越えて、生きがいを見つけている強さや輝きに圧倒された。幸せとは何か、生きるとは何か、差別とは何か、健常者を見返すように突きつけてくる感動作。
優 秀 賞	かんさい ほうそう 関西テレビ放送株式会社	ぐんしん ザ・ドキュメント「軍神」	第一次上海事変の爆弾三勇士、真珠湾攻撃の特殊潜航艇乗組員九人、ガダルカナル島の大舩中隊長。彼らは戦死して「軍神」となり、新聞社公募で歌が作られ、記念館や像が建てられた。番組は美談の真実を明らかにし、いかにして戦意高揚に利用されたかに迫る。丁寧な取材で当時の国民の反応を描いて戦争の現実に迫った秀作。
	まいにちほうそう 株式会社毎日放送	いちご 映像'15「わが家にやってきた脱走兵～ベトナム反戦運動・47年目の真実」	決して派手でなく多くを追わず、目線は一貫してぶれない。メッセージが明確な調査報道だった。脱走兵をかくまった一般家庭で撮られたスクープ映像、そこで笑う無邪気な青年脱走兵の行方を47年後のアメリカに追う。戦争の傷跡と癒えることのない哀しみ、そして元脱走兵の意外な告白。過去と現在の距離は徐々に縮まってゆく。大言壮語することなく、手の届く場所で実直に戦後を見つめた労作だ。
	やまぐちほうそう 山口放送株式会社	奥底の悲しみ	敗戦後、北朝鮮や満州からの引揚げの際に現地で性的暴行を受け妊娠した女性たちに墮胎手術を行う「婦人特殊相談所」が、多くの引揚げ港に設置されていた。地元山口県仙崎港から取材を全国各地に広げ、日本の植民地政策の果てにいわば棄民となった女性たちの苛酷な体験を、関係者の証言から浮かび上がらせた。

## ラジオ部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社宮崎放送 <small>みやざきほうそう</small>	機銃掃射に怯えた日々～昭和20年宮崎の空の下で～ <small>きじゅうそうしゃ おび</small>	戦争被害の中でも機銃掃射に焦点を絞り、宮崎県の事例を紹介することで、全国各地に被害があった事実を浮かび上がらせた。何より生存者の証言が圧巻だ。機上の米兵の顔が見えたこと、手や足を失ったときの状況など、一人一人の記憶の細部が、聴く側の感覚までを刺激する。きれいごとではない戦争の実態を生々しく伝えている。
優秀賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社エフエム沖縄 <small>おきなわ</small>	戦後70年特別番組 ラジオドキュメンタリー「一枚の写真～1944年10月13日 宮古島～」	捕らえられた直後の若い米兵を写す1枚の写真は、71年前宮古島で撮影された。兵士のその後を辿るとい見小さな物語の中に、戦争がもたらす暴力性、不条理が浮かび上がる。効果音などは豊富とは言えないものの、国内外に時間をかけて働きかけを行ったことが説得力を持たせた。戦争がもたらす悲しみは敗戦国、戦勝国を超えて現存する。
	(ドラマの部) 株式会社中国放送 <small>ちゅうごくほうそう</small>	RCCラジオドラマ「赤ヘル1975」 <small>いちきゅうななご</small>	1975年のカーブ初優勝という時代を背景に、転校を繰り返す少年と地元の少年との交流を軸に周りの大人たち、原爆の問題、野球観戦と実況中継を上手く織り込んだ秀作。原作は重松清だが、ドラマとして少年たちの日常と想いが活写されていて面白い。「忘れたらいけん」という台詞は、いろいろな意味で深い。とにかく楽しく聴けた。考えさせられた。
	(ドキュメンタリーの部) 株式会社毎日放送	ネットワーク1.17「20年～大震災と向き合う日々」 <small>いちてんいちなな</small>	阪神淡路大震災から20年という時間が過ぎても癒やされない被災者の内面を、長期の取材で丁寧に描きだしている。同時に、犠牲者の命が残された者たちと深くつながっていることが、全体を通して明確に伝わってきた。東日本大震災後の一人一人の命の意味を問いかけるものともなっており、継続的な報道活動の重みを感じさせた。

## レコード部門4件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大賞	にっぽん 日本コロムビア株式会社	ななじゅうなな 生誕77 沢井忠夫 そうきよくさんげん 箏曲三弦の世界 ほうたく 芳躅	1997年に59歳でこの世を去った沢井忠夫の喜寿に当たる年を記念して、未発表のライブ録音を含め、「沢井忠夫作曲編」「古典曲編」「現代名曲編」の3部作とした。圧倒的なテクニックと創造力で、20世紀後半における箏曲の新境地を切り拓いた彼の演奏は、今なお鮮烈な輝きを放ち続け、現代箏曲最盛期の記録として貴重である。
優秀賞	株式会社カメラータ・トウキョウ	ブルーノ・カニーノ プレイズ にしむらあきら 西村朗	イタリアの教会内での録音により、幽玄とも夢幻的とも呼びうる、作曲者のピアノ書法の豊かさが一層克明に打ち出されている。間合いを十分にとったカニーノの演奏で、空間の広がりの中に折り重なりあいながら満ちてゆく響きの、霧のような明滅ないし揺らぎが非常に美しく捉えられている。演奏・録音ともに秀逸な1枚である。
	にほんでんとうぶんかし 公益財団法人日本伝統文化振興財団	こむそうしゃくはち 虚無僧尺八～伝承の軌跡	酒井松道は、かつての虚無僧が奏していた明暗真法流と明暗対山流の尺八古典本曲全曲を伝授されてきた。これらの作品は既にCD化されている。今回はそれ以外に伝授された日本各地に残る虚無僧尺八の古典本曲(37曲)を録音、その精力的なとりくみ、丁寧な解説書、そして大作に挑む制作会社の姿勢が高く評価された。
	株式会社フォンテック	シューベルト ピアノ作品集6	シューベルト・ピアノ作品集の掉尾を飾るアルバム。第18番・第21番という大作ソナタ2曲を楽譜のリピート指定を忠実に守りCD2枚組とした。伊藤は、「繰り返し」を飽きさせないように聴かせる作画的な表現を敢えてせずに、シューベルトの気が遠くなる長さをまるごと空気中に広がるがままに広げる。永遠なるものがもしもあるとすればこの音楽、と感じさせてくれる見事な演奏。